

平成 26.7.21

はぐくむ

子育て王国の今

17

第4部「学ぶ」

日本海新聞は子育てを応援します。

「よいい、スタート」

緑に囲まれた倉吉市の打吹公園の遊歩道で、近くの倉吉幼稚園・倉吉保育園(西田直美理事長、100人)の園児たちがトレッキングポールで地面を突きながら力強く歩き出す。大人顔負けの速さで元気がいい。数百歩歩いても息はまったく切れない。天候のいい日には標高204mの打吹山の頂上まで往復することもある。

土踏まずがない

「おや、何かおかしい」
。2007年、西田理事長が同園園長に就任し、健診で園児たちの姿勢の悪さに気づいた。園医らに相談し、土踏まずがない「扁平足」を一つの原因と推測。翌年から

② 歩 育

心と体が丈夫な園児の育成を目指し、土踏まずと下顎の形成を図る試みをスタートさせた。

ただ歩くだけではない。登園後毎日30分程度、器具や遊具を使って跳んだり走ったりする「足遊び」やサッカー遊び、園児の成長に合わせた軌道選びなどにも取り組む。

同園の試みは08年に文部科学省教育改革推進モデル事業に選定された。園医や専門家とプロジェクトチームを結成して促進し、ウォーキングの普及啓発に力を入れているNPO法人未来(岸田寛昭理事長)など民間や地

域の支援も得て倉吉発の「一タによると、土踏まずの形成率は年度ごとで大きく異なるが、入園時の結果が出ていないが、県中部のサッカーチームの指導者で、同園でサッカー遊びを教える吉川尚男さん(42)は「園児は体幹がまっすぐで、周辺視野も広い。身体能力は小学校1年生のレベル」と評価する。

また昨年まで同園の保護者と先生の会代表だった公務員、森田直之さん(33)は「3人の子どもが園に通ったがみんな体が丈夫で、病気にかかりにくい。小学4年になる子は一日も学校を休んでい



遊びを通して

「100%に向上。体力ない」と話している。面では数値として顕著な結果が出ていないが、県中部のサッカーチームの指導者で、同園でサッカー遊びを教える吉川尚男さん(42)は「園児は体幹がまっすぐで、周辺視野も広い。身体能力は小学校1年生のレベル」と評価する。

また昨年まで同園の保護者と先生の会代表だった公務員、森田直之さん(33)は「3人の子どもが園に通ったがみんな体が丈夫で、病気にかかりにくい。小学4年になる子は一日も学校を休んでい

同園の土踏まずと下顎形成を目指す試みが本格的に始まって7年。子どもたちの個々の環境などによって効果が異なり、試行錯誤が続く。西田理事長は「歩育だけすれば良いということはなく、さまざま取り組みが必要だ。幼児期はいろいろな意味でゴールデンタイム。歩育を含め、遊びを通して楽しく動くことで生きる力がついていく」と話す。

マイトレッキングポールを持って歩き出す園児たち。倉吉市の打吹公園

体幹まっすぐ、視野広く